

都留文科大学電子紀要の著作権について

都留文科大学電子紀要のすべては著作権法及び国際条約によって保護されています。

著作権者

- 「都留文科大学研究紀要」は都留文科大学が発行した論文集です。
- 論文の著作権は各論文の著者が保有します。
- 紀要本文に関して附属図書館は何ら著作権をもっておりません。

論文の引用について

- 論文を引用するときは、著作権法に基づく引用の目的・形式で行ってください。

著作権、その他詳細のお問い合わせは

都留文科大学附属図書館
住所: 402山梨県都留市田原三丁目8番1号
電話: 0554-43-4341(代)
FAX: 0554-43-9844
E-Mail: library@tsuru.ac.jp

までお願いします。

[電子紀要トップへ](#)

山本鼎私論

山本鼎における自由画教育運動推進の原動力

An Essay on Kanae Yamamoto (3)

河 西 万 文
KAWANISHI Kazunori

自由画教育の提唱者である、山本鼎はクレヨンからクレパスの創意を提案して、製造者である佐々木昌興「桜商会」に、あらたな素材の工夫を望んでいた。

「サクラクレパスの七 年・平成三年一月二 日発刊「サクラクレパス社」西村四郎編」をみると山本鼎の自由画運動とともに、写生画が臨画にかわり全国的に写生画がおこなわれクレヨン画の時代が訪れた。需要面でクレヨンの製造を始めた。

山本鼎がフランスから帰国後、大正七年二月に、長野県上田神川小学校で「児童自由画の奨励」と言う講演をしたのが、自由画運動の始まりである。その時の話にお金が無いと言うことを、山越、金井らが聞いたことを述べている。

この自由画教育運動と同じころ、「くれよん」と言う描画材料が「五車堂」(東京)にて輸入されている。今で言うクレヨンであるが、山本鼎もフランス留学のとき求めている。このクレヨン(CRAYON)は、硬さは、様々であるため大正時代初期は、夏場と冬場によって、ねばねばしたり、硬かったりした。のは製造者の知識工夫と使用者と言うより指導者の知識が不足していたためであるが、当時としては桜商会の、発案者甲斐唯之と佐武林蔵によって、「日本クレヨン商会」大正一 年五月二十九日創立され、後クレパスを製造した佐々木昌興は、大正一 二年三月に加わった。

三人は、奥さんが参姉妹であり、次女の佐武裕子が、事業を行っていたが、佐武林蔵は、成城学園を退職して大正一 年九月一日「桜ク

レイヨン商會に称を変え桜ブレンドを全面に宣伝して売り出した。製造の苦勞は、大変だったと思う。例えば、蜜蝋、硬化油、木蠟、樹脂、パラフィン、カルナウバ蠟、などの原料をまた、アステリン、なども使用した。パラフィンは、成型が楽だが温度に弱いし、硬化油は、ミツロウ、パラフィン等を交ぜ硬くもろい欠点を補う。ホワイトは、チタンシロニ〇・炭酸マグネシウム五〇・石膏二八・ステイロウ一〇〇・パラフィン五〇・硬化油一、黒については、カボンクロニ〇・ロジンニ〇・石膏五〇・ステロー一〇・硬化油二〇・パラフィン五〇・桂漢土二〇。当時輸入製品もあったと思われる。

クレヨン製造の実験例をあげてみたが昭和二二年頃と思うが、クレヨンが硬くて、ワセリンを偶然交ぜて描き水彩で描き加えたのを覚えている。父が理科の教師だったので、翌日熱を加えて作り直して練れたので古いクレパスは、混合クレパスになつてしまつたが、描きその作品が特別賞になり、学校で一人だったので表彰されたので、今でも記憶している。そのときパラフィンを加えたのか今は理解できないが。

クレパスは、クレヨンと同じ顔料をヤシ油、硬化油、木蠟、カルナバ蠟、パラフィンを使用する。練りを棒状にして、クレヨンよりソフトにする。今は其れらの知識は、多少分かるが当時発明者は、外国からの製造方からの工夫発展を試みたものであろう。

山本鼎は、「クレパス」について、アイデアを書き残している(山本鼎記念館蔵か不明だが肉筆をのこす。「婦人之友」(大正十三年)とは別文である

クレパス

『クレパス』は『クレイヨン』の進化したもので、

クレイヨンに取って代つて

小学画用品の王者となるものと

見て居るが、これは全く面白い絵の具である。

これは小生旧知の佐々木昌興老

人の発明したもので、発明したもので、

其端緒に於て

小生の暗示がいさゝか役に立つた

関係から其老人の

守り立てた校商會の顧問を

受合ひ、小学画用品の改良に



就て何かと協力しつつあるのであるが、現在の処で此『クレパス』は、クレイヨンに対して六対四位の需給関係に在る六対四と。云ふのは、全国小学生の数を一千万人として其三割位が水彩絵の具を使って居るとし、あとの七百万人の十分の六がクレイヨンを使ひ、十分の四がクレパスを用ひて居ると云ふ勘定からである、むろん此数はたしかではない。問屋や小売店の鑑定を基にしての判断である。とにかく、大体に於て、低学年、即ち尋常一年から、三年位までの処はたいていクレイヨンを使って居るし、四年位から高等科へかけてクレパスの愛用者がないのである。それはクレパスがクレイヨンに比して自由な表現能力を備へて居る為めである。

前に、小生が佐々木老人に暗示を与へた、と云ったが、其暗示と云ふのは、こつである。

『佐々木君、クレイヨン』

の時代も長くないぜ。何しろ色味

が下品だからね。僕達は、クレイヨ

ンを駄菓子と名づけて居る

んですよ。それに絵の具として色

が、混ざらないのは大欠点だ

からね。だからもし、色がバステル

のやうによく混ざり、そしてバステル

のやうに不定着でなく、且つクレイヨン

と競争出来る位の廉価品が発

明されたら、クレイヨンは電灯対ランプのやうな運命に

なりませうぜ・・・』

云々、それまで佐々木老人は

『桜クレイヨン』と云ふかなり広

く行われたクレイヨンの製

造者であつたが。大震災が

アクシヨンとなつて、すつぱり

それをやめ、大阪へいつ

て専心研究を進めつい

に『クレパス』を完成した次第な

のである、しかし初期のクレパス

は臭気が強く色も濁り勝

ちで困つたがだんだん改良

されてやがて臭気

もクレイヨンより

もかすかになり、色は全く濁らな
 くなつた。しかしなほ寒暑に
 よつて硬軟を来す欠点
 があつて、製造家としても、
 使用者としても其処に少から
 ざる不便を感じて居つたのであるが、それ
 も其後の化学的研究
 の結果解決して、もはや
 一定品をもつて寒暑に
 処し得るに至つた。こゝなると
 印度洋も安全に通過する
 事も可能であらうし、長いストツ
 クにも差支へなくなる。そこで
 日本の専売特許に出した、
 欧米の特許をも取る事にし
 て目下手続中にあるやうなわけ
 ある。

自分が関与すからひいきするわけ
 ではなく、『クレパス』と云ふ絵の具は、
 全く面白い絵の具である、二十年
 ばかりも前に仏蘭西の画家
 ラファエリイが『ソリットカラー』と
 云ふ固形油絵の具を発案
 し、日本でも拍亭君などが率
 ざる不便を感じて居つたのであるが、それ

クレパスの
 色は全く濁ら
 なくなつた。
 しかしなほ寒暑
 によつて硬軟
 を来す欠点
 があつた。
 製造家として
 も、使用者とし
 ては其処に少
 ざる不便を感
 じて居たので
 あるが、それ
 も其後の化学
 的研究の結果
 解決して、も
 はや一定品を
 もつて寒暑に
 処し得るに至
 つた。こゝなる
 と印度洋も安
 全に通過する
 事も可能であ
 らうし、長い
 ストックにも
 差支へなくな
 る。そこで日
 本の専売特許
 に出した、欧
 米の特許をも
 取る事にして
 目下手続中
 にあるやうな
 わけである。

先して試み、同君は『草上の小憩』と題した百号大の作を試みた
 ことすらあつたが、使ひ心地及
 表現能力はとんと其『ソリッド
 カラ』である、唯絵の具の
 体質に蟬がはいつて居るから
 クレパスは乾きが早く、ねばり
 が少い。しかし全く油絵の具
 のやうに好きな色を出す事か出来
 る。且つ又白が随意に利き
 テレピンでのばす事も出来る。
 画家は此絵の具を
 小学用の下級品として、クレイ
 ヨンと同様に軽視し、中学生
 も未だ其特長を知らない
 で居るが、しかし一度普通の油
 絵写生の心得で景色なり
 静物なり裸体なりを写生
 して見ると馬鹿に出来ない事を
 知るのである。小生は先頃
 淡日(うすび)のあたつた淀川
 沿岸の景色を写生して見たが
 効果は殆ど油絵と同じであつた、
 丈もプラシデやるのより
 も或る処は不便であり手間が
 とれるが、素描的な味ひ

使ひ心地及表現能力はとんと其『ソリッドカラ』である、唯絵の具の体質に蟬がはいつて居るからクレパスは乾きが早く、ねばりが少い。しかし全く油絵の具のやうに好きな色を出す事か出来る。且つ又白が随意に利きテレピンでのばす事も出来る。画家は此絵の具を小学用の下級品として、クレイヨンと同様に軽視し、中学生も未だ其特長を知らないで居るが、しかし一度普通の油絵写生の心得で景色なり静物なり裸体なりを写生して見ると馬鹿に出来ない事を知る。小生は先頃淡日(うすび)のあたつた淀川沿岸の景色を写生して見たが効果は殆ど油絵と同じであつた、丈もプラシデやるのよりも或る処は不便であり手間がとれるが、素描的な味ひ

の加はる処に一種の面白き
 が出るのである。とにかく、クレパ
 スは油絵のはやる国には
 当然栄滅るべき簡易な画用品
 である。日本にやうに灰っぽい
 所謂鈍色(にびいろ)づくめの国
 にはクレイヨンのやうに、
 はでばでしくて、混ぜて色
 を出す事の不便な絵の具は
 駄目であるから。小生は、小
 中学生から写生の場合には
 クレイヨンを使はずにクレパスを
 使ふ事を勧める。しかし、
 とかく棒状の絵の具は、クレ
 イヨン式に使はれるので
 クレパスの折角の特色が
 没脚されがちなのは残念である。
 クレパスの特色は、白の活用
 にあり、混った平らな色の面を
 表現し得る点にある、
 宇治山田の小学校の子供が
 肖像を描く時のクレパ
 スの技法をきくにこうである。
 「まづ輪郭が出来ると顔の面
 全体に白が薄くおかれる、次に其



上に薄色がおかれ、又其上に朱
か行はれ、ライトレットか行はれ、而
して最後に又白で描きませながら
彼らの求める『肉色』が表現されるのである
云々、そしてこれらの絵の具の質及
順序は子供によって異
るのであるが、何れも教師の指教
を経ない各自の発明による表
現法だから面白い。それらの
絵を見ると実際の意外の深い
色が出て居るのに驚くのである。
小生は、いづれクレパスでタプロオ
を作つて見やうと思つて居るが、もし
エスキイスに用ひるならば最も
便利なものであらう。
終りに『クレパス』と云ふ名称が何
に由来するかと云ふと、これは
佐々木老人のつけた名で、つまり
「便利で廉価する点はクレイヨンの如
く、自由自在に色の混ざる
点はパステルの如し」と云ふ
のであつて、即ち『クレパス』
蓋し此名称は登録されて居て、
如何なる模造品も『クレパス』
と云ふレッテル貼る



山本医院旧宅と日本農民美術研究所跡地
(長野県上田市大屋)

事は出来ない。だから模造品との区別は此四字

がレットルにあるか無

いかで分明しやう。既に数

種の模造品が出て

居るが、無論比較になら

ない。十三年十一月

(原文のまま)

…(久保木哲夫学長に難解の文字を解説して戴いた。)

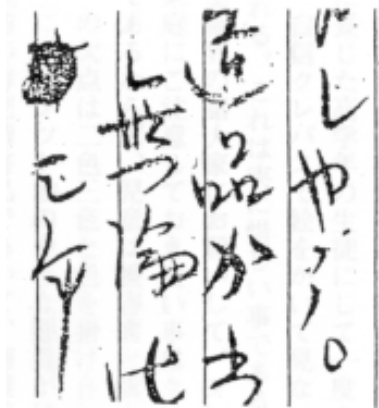
十と云う数字が後から消されているが、墨が違うため、十の文字がきちんと見えてるので十三年にした、三年だと、内容ともに、山本鼎自身が昭和三年と大正十三年を間違えるだろうか、それはないと判断した。

クレパスの発達は、山本鼎の自由画教育運動を全面的に広めた、原動力であった。写生すること、実相主義の山本鼎が提唱した。当然教師たちの指導とともに、桜商会の努力は忘れてはいけない。(一九一九—一九三三)

私はつねづね山本鼎論に、欠けた部分は特に自由画教育運動についてであるが、佐武林蔵夫妻のこと、『クレパス画の指導』昭和三年六月八日印刷桜商会美術部発行者、佐々木昌興研究が必要である。

此の桜商会の研究が、自由画教育運動の推進をしたことは、間違いない。だれも書いて居ないが、前より注目して居たのである。この小冊を古書店で購入したのが、昭和五〇年頃であったが研究できずに居た。またその後他の研究もあり、遅くなったが、昭和六〇年に、都留文科大学の紀要に山本鼎の私論を発表一・二書き。此の『桜商会』について興味をもつて居た前後するが、昭和三五年頃、寺田春武教授に顔料の講義を受け、其の後司馬江漢の研究でその顔料を研究したうえでしたので、児童の教材の改革即ち、用材・素材があつて表現が可能なことからも日本の美術教育史上から写生即ち自由画が『クレヨン』の、発達があつて、自由画運動のうねりが有つたこと。『クレパス』の販売は昭和三年をもって新製品化した。しかし「これまで」の研究は苦難の連続だった事は、『パステル』は、定着液が必要で、クレヨンにない重色が可能なものの研究の発明をそこが山本鼎が提案したのは、佐々木昌興の苦心作『クレパス』であった。

『サクラクレパスの七〇年』に寄ると「新製品は『クレパス』と命名されました。商標『クレパス』は、大正一三年五月六日に、出願、大正一四年二月二七日登録され、その製造法は大正一四年一〇月二十八日に出願、大正一五年八月一九日に特許となっています。『クレパス』



は、ヤシ油、硬化油』を使うが、寒暑に、影響され、冬に硬くなりまた、夏に柔らかくなり、一定の保存ができなかったが、井上源治郎技師によって実現夏冬ともに使えるクレパスの誕生を見て、昭和三年六月一日から、改良品の販売を始める。」児童画展の開催を大正十一年、第二回大正十四年、第三回昭和三年の事で、其れに合わせて、佐武林蔵の教師の体験をとうしての精神から児童画展を今日まで続けている。勿論社命の児童画展の事は、クレパスの宣伝を兼ねて『クレパス画の指導』（昭和三年六月八日）執筆者佐々木昌興、石川寅治、石井拍亭、板倉賛治、横井曹一、山本鼎、大竹拙三、鍋井克巳である。第三回全日本クレパス油絵展覧会が、昭和三年二月五日審査員に前の七人に、板垣繁樹、山形真、足立源一郎、佐藤平太郎、作井弥三平、木村荘八が、務めた。第一回と、第二回は全日本クレヨン児童画展は、クレパスにかわり、今日五 数回になると言う。昭和三年に改良してだした。クレパスの宣伝六月一日に売りだした。そのときの一枚のピラを紹介する。

『急告』現在の小学校図画用品として（クレパス）が最も進歩したもので

一枚の宣伝

ある事は先生方ご承知の事で御座いますが、構成品等は夏はペタ

ピラ

ペタで冬はコチコチでに成る様な悪質のものが多く、先生方も御探

定にお困りの由をととき耳にいたしますが（ほんとうのクレパス）

は絶対に右様の事はありません。東京府下及び市内各小学校の数は

六百余校で、其の内五百一校は当社の（ほんとうのクレパス）を使

用致されおる有様を見てもご了解出来る所でありますから、御安

心の上御探定の程を幾重にも願ひます。

新学期学校直接ご購入の節は定価より大勉強いたします。

尚見本は御一報次第急送致しますから御用命の程を願ひます。

（原文のまま）小冊の裏表紙にも同文あり

クレパスの定価八色一 銭・一二色三 銭・一六色四 銭・二四

色六 銭又一本づつでも売ります。

製造元校商會東京支社

クレパスの箱は山本鼎の文字でかかれ、茶の地下で白抜きで現在も、画材店で販売されている。

『教育の進歩は、さしも全盛を極めたクレイヨンの功罪を清算して、今やクレパスに天下を委ねようとして居る。少なくとも進歩の急速の都会地の小学校では、既に六パーセントはクレパスを使って居る有り様である。殊に写生の技巧に長じた高学年の生徒にして一度クレパスを使用した者は、再びクレイヨンを使おうとしないのである。然るになほ大多数の指導者諸君は、自信クレパスで絵をかくて見ない為であるがクレパスの特長を閉却して、クレイヨン画と同じやうなクレパス画を描がかりて平気で居られる。これは実に惜しい事である。クレパス経験者にとっては、それは『宝のもちぐされ』のやうに思えて残念でならない、そこで教育界美術界の諸大家にお願いして、クレパス画の描き方を説明して戴き此のパンフレットを作った次第である。なほ序ながら教育家、並びに御家庭にご注意しておき度はクレパスには種々な模造品が発売されて居ると云ふ事である。模造品として表現効果が真正のクレパスと同様であるならば、児童は被害者と成らないから安心であるが、模造品を悉く試験して見た結果、それらは何れも不良品なのである。例えば第一の欠点は二色三色と色を掛け合わせる、不快な濁色になる。第二に寒さにはコチコチに固く、暑さにはどろどろに溶けるのである、第三にはピンツケ油のやうな悪臭が付随する。吾吾は我慢にもこおふ偽物を黙過する事は出来ない。クレパスは、外国にも類品のない日本独特の専売特許品であつて、商標其物に『クレパス』と云ふ名称が使われている。故に『クレパス』と主題していい品物はすべて模造品と断じられて誤りなく、更に最近に幾多の改良を加えられたクレパスが『ほんとうのクレパス』と云ふ商標のもとに販売されて居るのである。試みに此『ほんとうのクレパス』で描いたものと、模造品で描いたものとを共に火に焙つて見ると其溶解の格段な遅速で体質の良否が一目に文明市、又、『ほんとうのクレパス』の白、黄、赤、青を混ぜ重ねて灰色を作り、同紙面に模造品と同じく灰色を作つて見るならば、其色味の清濁よつて一目真偽の判断を得られる筈である。山本鼎先生が先頃『婦人之友』誌上で

ふ……お子さん達の食物を御両親がいるいと注意なさる、あのやうに絵の仕事に於いて材料（画用品）を注意して戴き度いと思ふ……』

と述べられたが、全く玉石混淆の災ひは些事出ないと考える。

佐々木昌興

小冊の序に佐々木が寄せている。山本鼎が（頁一四二）次の文を寄せている

全文

『教育の進歩と画用品』山本鼎

僕の小学生時代、画用品は、鉛筆と墨筆と、コチコチした水彩絵の具でした。石版で複製した鉛筆画絵手本を臨模する事を唯一の絵学とした時代、ああした貧しい画用品でも別に不便を感じなかつたのですね、やがて色鉛筆が現れて一頃色彩的な画用品の

最も小学生向きに進歩したものとして全国に普及しました、たぶん今から十年場かり前の事です。此の色鉛筆は蠟を体質としたもので、云はば軸に仕込んだクレイヨンのやうな物ですが、クレイヨンよりは堅くて色の展美が悪く、混色は意任せず、其の上一月も立てば褐色し変色するのです。併し色鉛筆の普及によつて全国小学生の絵は色彩的に一転進を見たら放たれて、実相の写生に向ひ、各人の自由な見方、描き方が許されました。従来専ら色刷り石版の臨画帳から死んだ色を感覺して居た子供達は一番に自然の活きた色に目を開き、全国小学生の絵は悠々色彩的に躍進しました。

尤も此傾向を助長した他の大いなる力がありました。それは帝展恥じ召すすべての繪画展覽会が甚だしく色彩的であり、子供相手の繪雑誌が又甚だしく色彩的であつた事です。此時色彩能力の不充分な色鉛筆が、天下をクレイヨンに奪われたのは当然の事であり、処が進歩は止まないで、間もなくクレイヨンと天下を争ふ点で有力な画用品が出て来ました。クレパスと称するもので、これが目下急速に小学校に普及しつつあります。クレパスはクレイヨンと勝負を決しや得として居るか云ふに、クレイヨンは蠟を体質とする關係上、色が自由に混ざりません、一見混つたやうに見えるのは色が絡み合つて居るにすぎず、それ故渋い色を表現することは困難で、例えば灰色を買つた色はまづ出せないと云へます。処がクレパスはクレパス自身、もしくは指でなりこすれば、パステルのやうに楽に混ざるのです。故に例えば赤、青、黄、白の四色を運用して大概の色を作り得る事とんと油絵具に類似して居るのであります。唯クレパスの欠点は消費の早い事と、つまむだ指似少しねばりつく事等出、主として經濟的短所が障りとなつて居りますが、クレイヨンに取つて代わる子供用の色彩画用品は此絵の具であると思ひます。だが、進歩は猶も憩まず、将来クレパスを圧倒するどんな優れた絵の具が現れるかも分からない。がとにかく現在の処では、色彩上の表現能力の優越によつて、クレパスは小学三四年以上の描写能力の進むだ子供に愛用され、一方、表現能力は劣つて居ても經濟的な長所によつてクレイヨンはなほ多くの小学二三年以下の兒童の適用品として聲価を維持するものと見て間違いないのであります。

日本の小学児童約一千万人、其六割がクレイヨン画を描くと云ふ、さればこそ、クレイヨン製造業者は大小四の余も出来たわけ、上物で二色入り三錢、粗末な品には八色入り六錢などと云ふ安物があり最も多く用いられるものは二色入りです。推い子供は眼が働かないから八色で足り、写生が始まってくれば二色ほしくなり、色彩の感受がだんだん複雑になって、趣味を知って来ると二四色でも足りなくなるでせう。だが色の数を多くもったからと云つて、よい絵がかけるとはかぎりません。もしさうしたら、油絵の本場の西洋人は、水墨画の東洋人より、いつもよい絵が描けなければなりません。処が、西洋と東洋と、是れまで、どちらによい絵をが多く出来たかと云へば、答へにつまるのであります。

但しこう云ふ事は明瞭云へます。「絵画に於いては、色彩的価値よりも素描的価値の方がより重用である。何となれば、色はなくとも絵は出来るが素描なしには絵は成り立たない。』
して見れば、八色のクレイヨンでも良い色が描けるし、クレイヨンの黒一本でも良い絵を描ける道理です。故に山奥に住み安クレイヨンすら買つてやることの出来ないお母さんも、子供よしに良い絵をかかせる事に就いては、決して悲観なさらぬがよろしい。

クレイヨン画の特長は、色彩画がとんと油絵のやうに強い事です。短所は色がけばばして、下品な艶のある事です。尤も用紙に、蠟の艶を吸いこむ質のもの、例へば、コットン紙とか、吸取紙とか云ふものを使へば、黒光りをはぶけますが、それでも到底、バステル画や、水彩画や、油絵のときには適いません。児童のクレイヨン画が概してあくどく、けばばして居るのは、主として使い方が悪いからです。前向きで申した通り、クレイヨンの体質は蠟ですから顔料は融合せず絵の具のままの色が至るところに首を出します。推さないこの落書きのやうな線画ならそれで良いが、風景、人物、花瓶、果物、等々の色彩の真相を写生する段になると諸謂三次色を表現するに不便なクレイヨンは容易に目的に沿わないのであります。

よし其の青、紫の単独な色は美しくあつてもそれが、複雑な趣味のある(日本の自然の色は殊に洩い)色を描写しやうとした画面にあちこち首を出すと、けばばしく感じさせきたない、とおもわせるのです。多くのクレイオン画似は、わけても写生を専らにする高学年の小学児童のクレイオン画似は青、紫場が理でなく黄や桃色や鮮緑の生の色が同じ

ように禍して居るのであります。世間では、クレイオンを写生に最も適した子供向きの絵の具と思つて居るようですが、私は前述の事実から却つて写生に不向きな絵の具と思ふのです。クレパス画があり、水彩画があり、パステル画があり油絵ある今日、クレイオン画はそれらと別な描寫法に出づべしと思ひます。例へば黒もしくは、肌色等で、はつきりと素描して、それへ写生的に簡潔に色を施す事等もひとつでせう。とにかく自然の複雑な色合に迫真視野得としてクレイオンの色を鳥の巢のやうに絡せて、とんと出来損ないの三色刷りのやうな絵を作つたり、又は、強い油絵的の色彩を志し、クレイオンをぎうぎうこすりつけて、鼻くそ光のする絵を作るのは、決してクレイオンを堅く使つたものと云へません。クレパス絵はクレパスで描いた絵の事です。関西を中心に、九州、東海道にまづ普及し、近頃は東京及其以北にもクレパス画を描く児童が次第に多くなつて来ました。クレパスはクレイオンの進化した絵の具で、描寫能力の進んだ子供は皆クレパスを愛用するやうになります。此頃、新聞社其他で催される公募の児童絵画展覧会の入選がには、クレパス画が多く、入賞作品にクレイオン画よりもクレパス画が、多くなつて来たのは面白い現象です。それはクレパスは色も調子もクレイオンに比して遙かに描き現しよいからであります。クレイオンの欠点は、色が自由に混らず、けばけばしいクレイオンの原色が写生画の場合特に禍日となることが多いですが、クレパス例へば、赤、青、黄、白で重ねて描き混ぜ、あるいは指のさきでこすれば灰色が出来る程ですから、クレパスの原色は用ひ方次第で如何様の色にも変化し得るわけ、其便利さは、パステルと同じやうです。而もパステルのやうに描いた後で定着液で止めなくとも、クレイオンと同じく棒状絵の具ですから児童用として好適なのです。奈保、クレイオンは暗い色の上に明るい色、例へば濃緑色の上へ淡緑色、黒の上へ白、等は殆ど利かないが、クレパスはそれが良く利きます。其点はあるで、油絵の具のやうです。蓋しクレパスは表現能力の優れた点で、遠からず高学年用画用品として全国に普及するでせう。クレパス及びクレイオンの用紙刃、まづ共通でよいが、絵の具と紙、もしくは布、此關係は輕視出来ません、例へば、水彩画の具とワトマンもしくはオーダブリュー、油絵具と麻布、水墨と和紙もしくは絹、といったやうに

それぞれはまつた相手があるのであります。クレイヨン及びクレパスとそれも同じことで、然らばどんな紙が良いかと云ふに、肌目の粗大ならざるものが良い、都会のブル階級の子供はクレイヨン画にワットマンを用いたりして居りますが、もったいないばかりでなく色の効果もよくありません。尤も幼童の絵は概して簡單ですから、どんな質でも障りがないが、写生が始まって相当色味が大事になると、紙の質も手当たり次第ではいけません。ワットマンのやうな肌目の荒い紙を用いると、其クレイヨン画やクレパス画は、多く白うちゃけてドライな感じを与へます。それをドライでないやうに描きつめるには手間もかかるし絵の具を多く消費せねばなりません。田舎の子がよく使つて居る節目のあるラフ紙も又同じやうな不適品です。私の経験ではクレイヨンやバステルに適した紙は、普通のドロイングペーパーがよく、其れも裏の方の布目の出た方へ描くと効果がよいやふに思ひます。尤もクレパスはクレイヨンより軟質で揚美がよいから、荒い目の用紙もさまざま不都合はなく、麻布でも板紙でも差支へないわけです。用紙に色紙を使ふことも結構です。だが描く絵振りによつて、又絵のモデルによつて、紙の色合を選択する必要がある。例へば雪景がモデルの場合、赤とか黄都下の暖色の紙を選むでは駄目である如く、紙の色は表現を抜けるもの出なければなりません。色紙の活用は、時間をはぶき、絵の具の消費を少なくすると云ふ徳もある。(一)

山本鼎がクレパスの特徴を記している、彼の参考作品を『クレパス画の描き方』中村善作著昭和一四年九月一日印刷佐武林蔵発行。掲載「熱海にて」クレパス画(写真 P94)

クレパスの改良品の五大特徴として

書き手も絶対に軟らかくならず冬期でも決して硬化せざる事

色が自由自在に混じる事

油絵具の様に深みのある色合いが出る事

暗い色の上に明るい色がハッキリきくこと

▲非常に低廉なる事

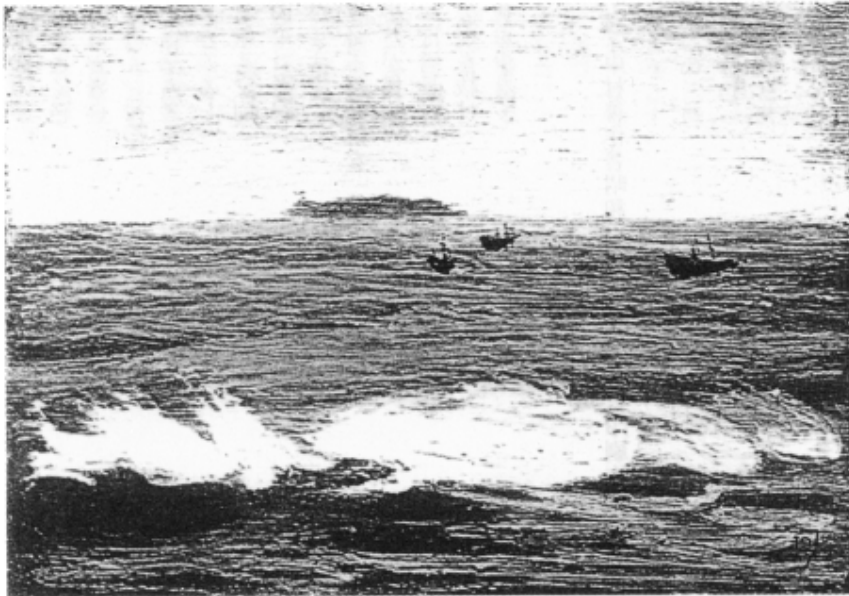
参考のために小冊の石井拍亭の文をみよう

『好適な小学生画用品』

クレパスの、前にできたものは、一種の臭気があつたり、硬すぎたり軟らかすぎたりして、使用に具合の悪い点もありましたが、最近製造にかかる「ほんとうのクレパス」は大分研究も積んで欠点の少ないものとなつてきたように思います。

一体私の説としては、小学校にしても中等学校にしても、もつと素描を余計に課さなければならぬと思つておるので、彩画材料の如何を唯一の問題とはしません、併し若し小学生で彩画をやらすとすれば、クレパスなどは好適な材料の一つであらうと思います。パステルは定着液で留めると云ふ面倒があり、水彩は水筒、パレット等の用具が複雑である上に、乾くの待つこともどかしさなどもあつて、短時間には要領を得かねる嫌があります。クレパスは其の名の示す通り、クレヨンにパステルの性質を加味したもので、白と混和することによつて或る色に任意の濃淡が出来るし、又暗い色の上明るい色を重ねることも出来るそんな点に特色をもつて居ます。若し色数の少い其の最も小さい箱にも、適度の鼠色が一本加へるならば、自然物を描写するに際し一層色の自由が得られるやうと思ひます（P4〜5）

クレパスの宣伝用にかかれた文だが、最初のクレパスは、販売してすぐ回収したものであることは、佐々木昌興の決断であつた。そして改良した、温度に左右されないクレパスの宣伝である。クレヨンも当時かなり良い物が製造されていたが、たがこのクレパス桜商会の努力結果各地にて開催された児童画展に出品された。



『熱海にて』クレパス画

山本鼎作

自由画教育

山本鼎の理論については、講演から知ることができる。例えば最初の「児童自由画教育の奨励」と題して講演したのが、大正七年二月十七日に神川小学校のことであった。翌年八年三月二三日「児童自由画展覧会趣意書」(山本記念館蔵)この頃鳥居小学校現在の豊野東小学校の前身校で、大正八年七月四日昭和天皇が訪問し、「写生画ヲ六点台覽ニ供シ、御持子婦リノ光栄ニ浴シタリ」大正八年学事報告より(信濃教育 平成元年一月号一二三六号)「鳥居の自由画教育と農民美術」常盤真重)臨本によらない写生教育は、根っこがあったのだ。

『児童自由画展覧会趣意書』

従来、各小学校で行われた児童の絵画教育は、大体、臨画と写生の二方法出ありますが、此処に私が『自由画』と称へるのは、写生、記憶、想像を含む 即ち、臨本によらない、児童の指導によりますと、児童は、粗悪な印

刷に付せられた大人(それも多くは下手な画家がぞんざいに描いたもの)の画を模写する時間が、自然から直接に形なり彩なりを汲み取る時間よりも多いのでありますが、これはいけない事と思ひます。

何故ならば、臨本に示された一本の下らない線が、一本の美しい活きた樹木の線と同じ力を以て児童の頭に働きかけるからです。彼等は、どんなものをも正直に模倣するので

す。ですから、いぢけた臨本を与へれば、児童の眼と手は、其の通りいぢけてしまいます。

児童の眼を豊富な自然界の方へ誘へば、彼らの心と手は活き活きとして来るのです。これは、学齡以前の児童の画が大概活躍したものである事がよくそれを証明して居ます。

大体、児童の画に、大人のやうな觀照力を奨める事は間違つた事です。児童はなるたけ野ばなしにせねば行けません。殊に美術上の教養に於いて然りです。

美が、師伝にのみ培はれたら意に墜落です。将来の日本の美術、及美術工芸を、臨本と粉本とで仕上げたやうな旧式な美術家の手から全々取り上げてしまふ事は、吾々の任務なのです。

一体、小学校で、算術や地図と一しよに、文章、繪画、音楽等を数へるのは何のためでせう。いふまでもなく、知識と併せて。高尚

な美の情操を涵養が為です。

人類が、皆、逞しい体力と、明快な容貌と、充分な知識と、適応した事業とを有つたとしたらすばらしいでは有りませんか。其上に、誰もが、其の情至に於て、詩人であり、美術家であり、音楽家であつたとしたら、実に天国です。左様な天国は、今日の吾々の間では

痴人の夢でありますが、併し、それと反対な方向に、好みで脚をむけて居るものは一人も

ない筈です。それは誰もが、貧乏の方に脚をむけやうとはして居ないのと同じ事です。要するに、人間は絶えず、産む事と育つ事を浴して居ます。其の二つが極めて順調に進展する処に、健やかな文化が建てられるゝものと思はねばなりません。

私は、吾々の美術、及美術工芸を、最も順調なものにし度いと思ふのです。そして、それは實に、児童の絵画教育から初まらねばならないと考へるのです。前にも申したように、大人は専ら粉本、小供は専ら臨本で画を学ぶ、といふ旧風を一掃してしまわねばいけな

いと思ふのです。臨本を与へて、小供に真似させるよりは、自由な『自然』へ放牧して、彼れ等らに産ませねばいけません。其方が大人に取つても興味ある事だし、小供に取つては有意味です。児童等は、自然との間に直接に画を産みながら、

ひとりで、美を了解してゆくでしょう。美とは、実にさういふ性質のもので、性欲が、

臨本を与えなくとも少年の胸に暗示されてゆくやうに、それは自然の機密ナノです、深い神の知恵なのです。

此処で、私は、諸君に期望するに、学童等に自由画を奨める事を似てし、更に其成績を集めて、児童自由画展覧会を催す事を似てするのでありますが、此事は、昨冬、神川小学

校で、私が、以上のやうな趣意に基いて、一場のお話をした際に、臨席の教育家諸氏によつて協賛され、左のやうな企が提議されたのでした。

小懸郡各小学校の児童の自由画を集めて、四月下旬展覧会を催す事。

其成績によつて、本年秋季、東京で、

『小懸郡児童自由画展覧会』を催し

自由画の奨励を全国的のものにするべ

き運動を導く事。

外国の都市では悠々此様な催しに接します。殊に露西亞では年一回ペテログラードとモスクワで定期的の児童自由画展覧会が開かれ、其の画集が又非常に立派なものであります。今世界で最も民衆的でそして美術的な工芸美術品は、實に露西亞人の手に産まれて居る

のであります。

日本は、過去に富饒なる美術工芸の成績を有し、そして、今は東洋一の文明文化の集散地であります。支那、南洋、北米等へ輸出せらるゝ、美術応用品は極めて無趣味なものであるに拘わらず、大いなる額を示して居ります。私は其処に有益なる暗示を得るのです。そして、吾々は、それ等の輸出品の美的価値に就て熱心なる注意を傾けねばならぬと思ひます。其範は手近い処で、輸出年額百万ルーブルに達するといふ露西亞の農民細工であり、

其処に一般的になつて居る、児童の自由画奨励であります。

潮は遠きよりクル 吾々は大いなる意志の下に、児童の自由画奨励にかゝらつてはありませんか。

大正八年三月十三日

山本鼎述

私共は八別冊ノ趣意ニ基イテ児童自由画展覽会ヲ開イテ見タイト思ヒマス御同感ノ各位ノ御協賛ヲ偏ニ願ヒマス

大正八年三月

小懸児童自由画展覧会主催者

小林直次郎
古坂政吉
尾崎善一
佃元次郎
矢島登郎
黒河内健
岡村千馬太
岡崎袈裟男
山本鼎
金井正
山越脩蔵

出品画 自由画

出品点数 各学年三点以上

出品期日 四月十日迄(組合主催者迄届ケシテ戴クコト)

会場 神川小学校

開会期日 四月下旬(確定次第御通知シマス)

当日八山本鼎、有島生馬氏外二三氏来校講演ノ予定

此の趣意書は、金井正と山越脩蔵によつて印刷された「山本鼎が『自由画教育』アルス大正一年二月発行 日本に於ける自由画教育運動(P55)77)第一回児童自由画展覧会は、四月二七、二八日神川小学校にて開催された。

九八 点の内一八五点の入選が決定した。受賞者三 点、一六人の教職員によつて展示された。参考室露西亜の子供の自由画一
数点と、岸辺氏がニューヨークの小学生作品多数展示。片山伸の講演「感情教育の現実及理想」彼が第一回児童自由画展について「中央美術」六月号書いている、全文を入れる。

「芸術自由教育」大正九年二月一日発行（P125）130、及び「自由画教育」大正一年二月六日発行（P69）77、再録されている。ここでは雑誌「芸術自由教育」より、

『私は畫事には全くの素人であるばかりか、最近の一年日本へ歸つて後、まだ一度も繪の展覽會に行つたことがありません。これがいろいろ忙しかつたり差支へたりした偶然の事情からであるのは勿論ですが、とにかくこれ位不熱心だといはれればいはれるでせう。度々御案内を頂いてゐる展覽會へもいつも折を失つてゐて、すまないやうな氣がしてゐます。この私が日本へ歸つて以來見る最初の畫の展覽會を、わざわざ信州の山奥の、あまり名もない小さな村の小學校へ出かけて觀て來たのです。少くとも私にとつて唯事ではありません。』

これはモスクワ以來の友人山本鼎君が主として成就した仕事であつたからでもありません。また、私の非常に興味を有つてゐた兒童の畫の展覽會であつたからでもあります。この二つの理由から私は可なり忙しい中を無理をして、まれた講話を喜んで引き受け、山本君の里である小縣郡大屋へ出かけました。この展覽會がこの種のものとして日本で最初のものであつて、而かもそれが信州の一村落の小學校で開かれるといふことも私の興味を刺戟したのは勿論です。

私は展覽會の前日四月二十六日の夜半に大屋驛へ着き、山本君と奥さんとに雨の中を迎へられてこの夜は山本君の御兩親の家へ泊めて貰ひました。展覽會の様子を聞くと、非常な盛況で一万點以上集まつたといふ話です。審査から陳列から何もかも山本君が心棒になつて、一寸觸つたら撥ね反されさうなハチ切れるやうな勢ひでやつてのけたやうに察せられました。何しろ山本君の顔の筋肉は、幾分の安心を浮べて、しかしながら、元氣と確信とに充ちてゐるやうに見えました。

翌朝は實に眺へ向きの上天氣でありました。高原の澄明な空氣が、前夜の雨に洗はれた晩春の木草キナソの間に、山の空に光つてゐました。私たちは非常に爽やかな氣分になつて、アトホームな氣の措けない山本君の家を出て、坂の下で車に乗り、川小學校へ向ひました。道々小學校の生徒らしいのがやはりその方角へ三々五々やつて行きます。女の兒などは平生よりやゝ小ぎれいな衣服を着けてゐるやうであります。

爽やかに晴れた山國の朝は、車の上では尚更膚寒い程でありました。筑摩川の清流に沿うて行くと、小さな橋の此方からもうポプラのひよる高く立ち並んだ一劃がそれと察せられました。果たして門には大きな國旗が交又せられ、小學校の生徒等は此方からも彼方からも學校の門へ流れて行きました。門前にはもう機敏な縁日商人が二つ三つの小さな店を並べ、紅白の薄香酒や菓子など賣つてゐました。門をはいると、黒板に會場を指示した案内圖が描いてあつて、その下の方の餘白には極めてプリミチーヴな人間の形が描いてありました。あとで講演の折に東洋幼稚園長の岸邊氏も言はれたやうですが、その人形には耳の附けてなかつたのを、私も直ぐ氣がつかしました。門前の掲示板からしてこの展覽會らしいと思ひました。

午前中に山本君の挨拶なり報告なり趣旨の説明なりがある筈で、その前に先づ私たちは會場を一通り見て廻りました。會場は凡て七つ

の室を之れに當て、その内一つは参考室になつてゐました。山本君が美術院から借りて來た海老茶色の幕を張つて、その上に無數の繪畫がピンで留めてありました。會場にはもうその作者やその友人や、父兄らしい人たちが可なり多勢部屋々々に充ちてゐて、ある場所では人を押しつけて行かねば見えないといふ有様でありました。午後には講演會がありました。そのあひ間あひ間に、何度もちよい／＼私には會場へ行つて見ました。翌日、別所温泉からの歸途、山本君と一緒に車で上田の町から、川小學校へ行く途中では、もう上田の市中からして既に幾組もの小學生の隊伍に行きあひました。それが皆、川へ遠足の名目の下に展覽會を見に行つた歸りなのです。學校の近くへ來るにつれてその隊伍が一層多くなり、まるで上田から、川あたりへかけてのお祭りか何かのやうなのです。この二日目は會場は一層の賑はひで、薄香酒の小さなガラス罐を手持つたやうな方々の村の小學校の生徒たちが、あたかも自分たちの展覽會だといふ風な心持ちを見せて、自由にうれしさに、幾度も／＼、あちらこちらに會場を見てまわつてゐました。

私もまた幾度も見てまわりました。不思議なことには、幾度も見ても見あきがしないのです、見てまわる度に毎に新しいよい繪を發見することが出來ました。丁度自然の中から刻々に日々に、よいもの新しいものを發見することが出来るやうに、この六つの陳列室(二つの参考室を除いて)からは、見て行く度に、よいもの新しいもの美しいもの眞實なもの自由な生命のあるものをそこにもここにも見出しました。實際何度見ても見あきず、何度見ても滾々として新しい泉から清水が噴き出てるやうな感じがしました。レオナルド・ダ・ビンチの言葉に、泉から掬むことの出来るものは杯からは掬まないと云ふ意味の言葉がありました。實際この展覽會の畫の多くが、杯をすて、直ちに自然の泉から掬んだものであつたことは言ふまでもありません。兒童の掬み、見出し、感じた自然の豊富な拘束のない、平氣な平左な程力強いさま／＼な一角が、少しもつとめないで、知らぬ顔をしてゐながら、何度も見てゐるうちにいつの間にか私たちの心を捉へ眼を引きよせました。それは丁度路ばたの電氣のやうな、もしくは全く名もない草花か何かのやうなものかも知れません。毎日見なれて珍らしくない雀や鳥と云つた鳥のやうなものかも知れません。毎日往き還りに見なれて一向おもしろくも珍らしくもない近處の家並みや町や村の一角の景物のやうなものかも知れません。併し、それでゐて、黙つて、平氣で、無造作に私たちの前に己れを投げ出してゐます。そしていつかは私たちを自分の方へ引きよせずには置けません。その平氣な強さといふものが、この展覽會の全體に漂つてゐました。小供の繪には、大人の求めてゐるやうな、また大人の描くやうな空想や幻影はないかも知れません。しかし、名もない草が路傍に芽を吹いて來る、その土の底の芽の力、大地の下の力をば、彼等は存外樂に、自由に、我がもの顔に感じてそして平氣な顔をしてゐるではありませんか。その間に少しも疑ひや、自他の區別や、優劣の感じなどを容れてゐないではありませんか。小まじやくれた比較などを試みてはゐないではありませんか。彼等の世界は渾然として一です。彼等はいつでも隨處に渾然たる「一」の世界を感じ、見出し、創造することが出来るのです。それほどに彼等の想像は自然で、眞剣で、充實してゐて、遊戯半分ではないのです。それほどに彼等の想像は遅ましく、強く、平氣の平左なのです。

私のおもしろいと思つた繪の作者は、概して年少の小供のもの程よく、年長の小供のほどおもしろくありません。大抵受持ちの先生たちの話によると、その級での第一の腕白者であつたり、學校の成績のよくない生徒であつたり、もしくは甚だしきに至つては馬鹿のやうに思はれてゐる生徒であつたりしましたさういふ生徒の書いた繪が私たちに評判がよいのを見て、先生たちは多少意外を感じてゐたやうです。組の中でも大人しくてよく出来るといふやうな小供の書いたのは大抵お手本式のものか、あまりに馴らされて力のなくなつた、小ぎれいではあるが自信のない遠慮がちな畫でありました。この事實は、私たちをして人間の本性に就いても一度考へ直させるに足るばかりでなく、また今の教育といふものが、どんなものであるかといふことを考へさせるに十分です。大人が寄つてたかつて、いかに強く逞ましく平氣の平左であるべき小供の心を力のないものに馴らすことに骨折つてゐることです。いかに小供が大人から粗雑に取り扱はれて、理解せられずに苦しんでゐることです。そしてまた、如何に小供が懇ふるすべのない、わけの分らない壓迫に戸惑ひをして悪夢を強ひられてゐることです。考へて見れば、随分おそろしいやうなことではありますまいか。

生命の力といふものは不思議なものだといふ思ひました形は畸形であつても、不自然であつても、小供の感じのそのまゝに平氣で大膽に強く出てゐるものは、さういふ形のいびつなところなどに文句を言はせないので、觀るものに快い自然な微笑を惜しましめない力を有つてゐます。そして小理屈なしに小供の生活の氣分を是認させてしまひます。本當の力、本當の自然本當の生命といふものは實にさういふ風なものではありませんまいか。さういふ風にらかな、無雜作な、單純なものではありませんまいか。この展覽會を見た人は、多少ともこの快い自然な微笑をもらさずにはゐられなかつたであらうと思ひます。實際、私達の生活では、私達の大人の生活では、かういふ樂な、快い自然な微笑を催すやうなことは割りあひに少ないやうです。私はこの展覽會を見て、幾百人か幾千人かの大人が、多少ともこの快い自然な微笑を催すことが出来たとすれば、それだけでもこの無名の小作家たちに感謝するに十分であらうと思ひます。

自然が粗つばいやうで非常にデリケートであるやうに、小供の書いた繪も随分驚くほどのデリカシーを示してゐます。實にいぢらしいほどのデリカシーを有つてゐます。よく見れば見るほど、いかにも自然なデリカシーが見られます。丁度一本の草の葉が、いかにも美しくデリケートに造られてゐるやうに。

繰り返して申しますが、この展覽會はいくら見ても見あきのしないものであります。見る毎に新しいよいもの、美しいものを發見するといふ風がありました。二十八日の夕方、いよく會を閉ちて、陳列の繪を片づけるといふことになつてからその中の特色のあるよい繪を借りて歸るつもりで、また一とまわり見て行きました。さうすると、それまでに幾度か見て氣のつかなかつたものがまた新しく幾點か發見せられました。

二日間でおしまひになつたのは全く惜しいやうな氣がしました。

一體この展覽會を催すについて、山本君を刺戟したのはモスクワでの兒童繪畫展覽會がもとなのです。モスクワではちよいとこの種の

展覽會がありました。自由畫展覽會とはいはなないで、『兒童の創造』といふ名前で作つてみました。ロシアでは臨本教育といふものはやつてゐません。随つて「自由」といふことを特に標榜せずとも、これは勿論のことなのです。日本でも一日も早く臨本教育といふものをばやめて貰ひたいと思ひます。(尤も容器畫は別)一體日本の教育には、藝術方面が恐ろしく虐待せられてゐて、悉く實用的切利功な目的に支配せられてゐるやうです。藝術方面の虐待といふことは、眞實な人間らしい感情を殺すといふことになるのです。こゝではもう紙數もほゞ盡きさうですから長くは申しませんが、日本の教育が、何だか生氣のない、形式的な味ひのない、おもしろみのない人間を作ることをしてゐるらしく見え、さういふ人間がかく小中學などでの模範生徒であつたりするのは、他にも原因はあるでせうが、根本は人間に一番大切な命そのものともいふべき感情を虐待して目前の功利應用にのみ囚はれてゐるからでせう。世界は今、人間が自己の正しいと信ずる感情を披瀝し表白することを最も必要とする時機はめぐりあはしてゐます。もしかういふ時に生きながら、表白すべき自己の感情がしなびて干からびてゐるとしたら、随分悲惨ではありますまいか。私はかういふ時に當つて、丁度偶然にも教育上の意味からでなく美術展覽會としてのこの兒童自由畫展覽會の開かれるといふことは、單に畫事の上からといふだけでなく随分意味のあることとも見られるやうに思ひます。この展覽會が信州の山の中から持ち出されて、東京で今一層大規模に催される時の來るのを心から望みます。何分時間がなくて書き残したことが大分ありますが今度はこれだけにして置きます。』

大正九年七月『日本兒童自由畫協會』設けられた。会員は、山本鼎、片山伸、岸辺福雄、長原孝太郎、谷好夫、金井正、山越脩蔵、鈴木三重吉の八人

- 一、展覽會、及講演会を催すこと
- 一、自由畫の優良なるものを募集すること
- 一、教師使用書を作成するに就ての實驗的な資料を準備すること

大正八年五月二二日 塩川小学校長松尾砂当てた手紙(山本鼎記念館蔵)

非常に御懇意なる御手紙を有り難く

拝見いたしました。

塩川と云へば、此度の展覽會に写生畫を最も多く出された学校です。

残念なことに鉛筆の

線が、皆細く且つ淡かったが、皆よい絵でした。

金井君に其事を告げたときに

「塩川には、よい先生が居やすから」といふ答へでした。

此度は、自由画——といふ

簡單明瞭の事が、やはり以外に了解

されないことを知つて、だぶ考へさせられ

増した。諸君は従来指導の標準を、

臨本に委ねて、安心して居られました。

諸君は、あれ等の無意味な臨本を

なぜそう信任して居られたのでせう。

其信任にはつきりした見解

があつたでせうか？。

固定画帳を作る画家は

職業的に描いています。

其画帳を受け取つた教師は

職業的にそれた生徒に

授けて居ます。授けられた

生徒は一生懸命に其の下ら

ない大人の画を模写

するのです。そして

真似の上手な兎が二重丸

諸君はあれ等無意味な臨本を
なぜそう信任して居られたのでせう。
其信任にはつきりした見解
があつたでせうか？。
固定画帳を作る画家は
職業的に描いています。
其画帳を受け取つた教師は
職業的にそれた生徒に
授けて居ます。授けられた
生徒は一生懸命に其の下ら
ない大人の画を模写
するのです。そして
真似の上手な兎が二重丸

を与へられるのです。

私は其馬鹿らしさを

直覚しますがだれだつて

直覚しそんな事ではありませんか。

私の求める処は簡単に

臨本のかわりに生徒に

広汎なぞして活きゝして居

る『自然界』を授ける、

といふだけです。

諸君は指導の方法がわからない

とお仰る——そんな筈はない。

今日まで安心して国定臨画帳へ指導して居られまし

た其変わりに『自然界』

指導して下さればいゝのです。

それこそ安心して差支へない

事です。眼のある兎なら苦

労なく其処に線と彩とを見

る筈です。

私は同じ意義の画を中学に

も高女生にも、大学生にも美術

学生徒にも、望むのです。

『美術の生命は』創造』である』

といふ言葉を疑う人はない

筈です。創造が模写から

生まれぬのは分かりきつた事で

1. 創作——先づ其生命、
 2. 指導——国定臨画
 3. 模写——自然界
 4. 模写——自然界
 5. 模写——自然界
 6. 模写——自然界
 7. 模写——自然界
 8. 模写——自然界
 9. 模写——自然界
 10. 模写——自然界
 11. 模写——自然界
 12. 模写——自然界
 13. 模写——自然界
 14. 模写——自然界
 15. 模写——自然界
 16. 模写——自然界
 17. 模写——自然界
 18. 模写——自然界
 19. 模写——自然界
 20. 模写——自然界
 21. 模写——自然界
 22. 模写——自然界
 23. 模写——自然界
 24. 模写——自然界
 25. 模写——自然界
 26. 模写——自然界
 27. 模写——自然界
 28. 模写——自然界
 29. 模写——自然界
 30. 模写——自然界
 31. 模写——自然界
 32. 模写——自然界
 33. 模写——自然界
 34. 模写——自然界
 35. 模写——自然界
 36. 模写——自然界
 37. 模写——自然界
 38. 模写——自然界
 39. 模写——自然界
 40. 模写——自然界
 41. 模写——自然界
 42. 模写——自然界
 43. 模写——自然界
 44. 模写——自然界
 45. 模写——自然界
 46. 模写——自然界
 47. 模写——自然界
 48. 模写——自然界
 49. 模写——自然界
 50. 模写——自然界
 51. 模写——自然界
 52. 模写——自然界
 53. 模写——自然界
 54. 模写——自然界
 55. 模写——自然界
 56. 模写——自然界
 57. 模写——自然界
 58. 模写——自然界
 59. 模写——自然界
 60. 模写——自然界
 61. 模写——自然界
 62. 模写——自然界
 63. 模写——自然界
 64. 模写——自然界
 65. 模写——自然界
 66. 模写——自然界
 67. 模写——自然界
 68. 模写——自然界
 69. 模写——自然界
 70. 模写——自然界
 71. 模写——自然界
 72. 模写——自然界
 73. 模写——自然界
 74. 模写——自然界
 75. 模写——自然界
 76. 模写——自然界
 77. 模写——自然界
 78. 模写——自然界
 79. 模写——自然界
 80. 模写——自然界
 81. 模写——自然界
 82. 模写——自然界
 83. 模写——自然界
 84. 模写——自然界
 85. 模写——自然界
 86. 模写——自然界
 87. 模写——自然界
 88. 模写——自然界
 89. 模写——自然界
 90. 模写——自然界
 91. 模写——自然界
 92. 模写——自然界
 93. 模写——自然界
 94. 模写——自然界
 95. 模写——自然界
 96. 模写——自然界
 97. 模写——自然界
 98. 模写——自然界
 99. 模写——自然界
 100. 模写——自然界

て東京でやり度い、も
のです。それには相当にし
っかりしたソサイテイを
作らねばなりませんから一
寸手間がかかります。

私も此八月頃は少し閑が

出来ますから其方にかゝる考へです。

東京で展覧会をする前に

はも一度新しい画を神川組合校から

画を集めて戴いて予選

をしましやう。東京でやるや

うになれば審査は私一人で

なく、三四人の美術家加わる事になるでせう。

まづは重ねて存意を述べ

長いお手紙に対す

る感謝の意を致します。

山本鼎

五月二十二日

松尾様

この手紙を見ますと、自由画教育に対して、山本鼎の自身の神川小学校での成功をうらすけている。

つぎに竜丘小学校図画教師 木下茂男宛 十一月十二日

其後はご無沙汰致しました。

二十四日に京都からかへって

おはがきを拜見しました。

十月一日に小林氏の御来訪をいただきいろゝ

其後のお話しを承りました。

一昨日写真及ロシアの画たしかに落手直ちに片山氏に届けました

立派な写真で大いによろこびました。

どうぞ校長はじめ皆様へよろしく御礼

をお伝え願ひます。

其後皆々忙しいのでつい協議会を開く機会

を得ずに居ますがいろゝ協議す可き事が

たまったので、岸部氏が九州からかへり次第

会合をするつもりです。

来年四月京都府下の峰山町で第三回が開かれる事に決定しました
峰山町には、やはり三四人よく

長野県下伊那郡
竜丘村 竜丘中学校
木下 茂 様
御来訪の御礼
十月一日に片山氏より
写真及ロシアの画
を御送付いただき
誠にありがとうございました
校長はじめ皆様へ
よろしく御礼
をお伝え願ひます

おはがきを拝見し
誠にありがとうございました
十月一日に片山氏より
写真及ロシアの画
を御送付いただき
誠にありがとうございました
校長はじめ皆様へ
よろしく御礼
をお伝え願ひます

理解した人が居る様子です。

金は其他

の富豪が負担する事に
きまつたさうです。

東京でやりたいのですが
東京でやるとなるとずい
ぶん費用もかゝるし

其費用の出処もむづか
しいし会場の事も困難
なのでつい手をつけず

に居ますが来年は

是非とも充分なものをや
るつもりです。

それより早く、兜屋画堂で

美術家連に見せてやる児童
自由画の展覧会をやる事に

きまつて居ます

これは精選したのを

三百点立派に装つて出すつもりです
もしかすると十二月に

やるかも知れませんから

竜丘での、六百余枚

を小生に貸して戴き度いと
存じます。あのうち

から優れたのを選び度い

「東京の美術界は、
今、大變な時を
迎へて居る。國
際的な美術展
覧會、東京に
開かれ、東京は
美術界の中心
となつて居る。
此の機会に、
東京の美術界
の発展のため
に、東京の美
術界の発展を
促進する。こ
れが東京の美
術界の使命だ
らう。東京の
美術界は、こ
の機会に、こ
の使命を遂げ
たい。東京の
美術界は、こ
の機会に、こ
の使命を遂げ
たい。」

「東京の美術界は、
今、大變な時を
迎へて居る。國
際的な美術展
覧會、東京に
開かれ、東京は
美術界の中心
となつて居る。
此の機会に、
東京の美術界
の発展のため
に、東京の美
術界の発展を
促進する。こ
れが東京の美
術界の使命だ
らう。東京の
美術界は、こ
の機会に、こ
の使命を遂げ
たい。東京の
美術界は、こ
の機会に、こ
の使命を遂げ
たい。」

のです、これは少し急ぎますから
すぐ送つて戴き度存じます。
広島ではやらなかつた
のですね。

幕は美術院の方へ
送つて下さいまし。

農民美術の趣意書が

出来ましたらお目にかけます。

明後日小生は帰郷し

て婦人会と青年会に

一場の話をして最初の

志望者を募集し試験

する事になつて居ます

二月一杯は郷里に居て

男女二十人の

練習生に自由製作を

指導したり美術上の講

話をしたりしていろいろ

の実験をなし且つ

その機会に演説のけい

こをする考へです。

此次お目にかゝる時は

おしやべりの出来るやう

になります。

では又

おしやべりの出来るやう
に練習生を募集し試験
する事になつて居ます
二月一杯は郷里に居て
男女二十人の練習生に
自由製作を指導したり
美術上の講話をしたり
していろいろの実験を
なし且つその機会に
演説のけいこをする考
へです。

二月一杯は郷里に居て
男女二十人の練習生に
自由製作を指導したり
美術上の講話をしたり
していろいろの実験を
なし且つその機会に
演説のけいこをする考
へです。

二月一杯は郷里に居て
男女二十人の練習生に
自由製作を指導したり
美術上の講話をしたり
していろいろの実験を
なし且つその機会に
演説のけいこをする考
へです。

山下 福

ナアナア

十一月十二日 山本生
木下様

これは、大正八年の十一月十二日の手紙であるが、「児童自由画展覧会開催の趣旨」
大正九年三月八日京都府教育会中郡部会の事。東京兜屋画堂一九二

「児童自由画展覧会」目録（山越情蔵旧蔵 現山本鼎記念館蔵）

大正八年九月十日木下茂男宛第二回の竜丘小学校での内容である。六千三百七十二点集まった。山本鼎が選別して、「第一回の時より三千点ばかり少なかったが、併し第一回の時は、自由画の趣意の徹しない画が約八割もあったものに対して、此処には左様な画は、一割にも及ばなかった」（『自由画教育』^{P79}）と述べて居る。入選七百九十点。
「前略展覧会に関する用件を申します。

昨日片山伸、谷好夫両君を訪問して御希望を伝へ承諾を得ました。
それ故

岸辺福雄（東洋家政女学校長）

（東洋幼稚園々長）

片山伸（早稲田大学教授）

谷好夫（報知新聞社会部記者）

の三人が参るわけになりました。

ですからそれぞれにご主催者側から正式に
依頼状を送って下さいまし。

岸部氏は 神田北神保町 岸辺福雄

片山氏は 市外西大久保三一二 片山伸

谷好夫氏は 京橋区有楽町報知新聞社編集局 谷好夫
です。

九月十日 山本鼎

略
木下茂男様

講演は山本鼎の挨拶、久保田俊彦「所感」、片山伸「児童自由画と其背景」三日間展示された。九月二十四日から二十六日「芸術自由教育」二号大正十年二月発行（P90、94）第二回児童画展覧会模様が記述されて居る。大正八年九月二十七日稻籬小学校片山伸「児童自由画の精神」と其運動就て」の講演があった。

東京進出

大正九年二月兜屋画堂（東京裏神田神保町六）

展示は、二百十点カタログ三色刷り（山本鼎記念館蔵）

長原 坦作 五一点

石井幸子作 四八点

長野県地方小学校

児童作品 九八点

三 年前の子供の作品 三点 合計二二点

長原孝太郎のコレクシヨン 長原坦及び「自分が本郷にいた頃金網屋の一歳ぐらいの男の子が書いていたものを・・・いただいた」絵巻物

三点出品 坦五一点息子。

石井鶴三のコレクシヨン 一八歳で亡くなった妹石井幸子の遺作 四八点

山本鼎のコレクシヨン 神川、竜丘小学校の作品優秀作品 九八点

二月二七日 本郷小学校にて、山本鼎「自由画教育に就て」講演。持参した作品で小展覧会開催する。

四月 日本児童自由画展覧会五万点が集まった。審査長原孝太郎、岸辺福雄、坂本繁次郎、平福百穂、石井鶴三、山本鼎の六名 児童画協会に石井、平福、坂本氏が加盟した。

兒童自由畫展覽會
目錄



兒童畫展
1920

東京美術會主辦
東京美術會發行



- 一 兒童畫展 五二
- 二 兒童畫展 四八
- 三 兒童畫展 九八
- 四 兒童畫展 三

本會主辦之兒童自由畫展覽會，自一九二〇年以來，已屆第十屆。其間展覽之兒童畫，其內容之豐富，其表現之自由，其藝術之進步，均較前屆為優。茲將本屆展覽之兒童畫，分門別類，編成目錄，以供參觀者之參考。本目錄所列之兒童畫，均係由本會主辦之兒童自由畫展覽會所選出之優秀作品。其內容之豐富，其表現之自由，其藝術之進步，均較前屆為優。茲將本屆展覽之兒童畫，分門別類，編成目錄，以供參觀者之參考。



香三村の雄鶏

香三村の雄鶏は、その雄姿を遺憾なく発揮している。その羽は、まるで黒い絹の如く、光沢を放っている。その尾は、まるで扇の如く、優雅に広がっている。その足は、まるで鉄の如く、力強く地面を踏みしめている。その目は、まるで宝石の如く、輝きを放っている。その鳴き声は、まるで雷の如く、遠くまで響きわたっている。その姿は、まるで王者の如く、威風凛々としている。その雄姿は、見る者を驚かす。その雄姿は、見る者を魅了する。その雄姿は、見る者を感動させる。その雄姿は、見る者を感動させる。



花の瓶

花の瓶は、その優雅な姿を遺憾なく発揮している。その瓶は、まるで宝石の如く、輝きを放っている。その姿は、まるで王者の如く、威風凛々としている。その姿は、見る者を驚かす。その姿は、見る者を魅了する。その姿は、見る者を感動させる。その姿は、見る者を感動させる。



風景の地帯

風景の地帯は、その雄姿を遺憾なく発揮している。その地帯は、まるで王者の如く、威風凛々としている。その姿は、見る者を驚かす。その姿は、見る者を魅了する。その姿は、見る者を感動させる。その姿は、見る者を感動させる。

京都に進出

木下茂男宛 大正九年三月十日 長野県竜丘小学校図画教師

「山本鼎の手紙」山越脩蔵編 山本太郎著

P172

なほ、いつぞや申し上げた通り

【児童自由画協会】といふものを作りました。そして最初の会員を片山伸 岸辺福雄 山本鼎 金井正 木下茂男 石井鶴三 山越脩蔵 谷好夫 長原孝太郎 坂本繁二郎の十名にしました。そして近日総会を開いて、任意の会費をぼつちりづつでもだして郵便台其他にあてる事にしました。其うちに基金が出来ると具体的の運動をやります。急務は処理法に関する著述ですがそれに就てずいぶんあなた方のお力を乞ふ事になる事でありませう。でお序の節、其お初穂お届け下さいまし、小生は五円ばかり出すつもりです。基金が出来たら『自由教育』といふ機関雑誌でも出し度いものです。

其金は京都の展覧会の機に或は得られさうなんです。寄付しそうな人があるのださうです。

東京市外日暮里の自宅より竜丘小学校木下茂男宛て封書

京都での児童自由画展のための案内状

児童自由画展覧会開催の趣旨

本会は従来催され足る展覧会と其趣を異にして児童の天真を披露し自然を發揮せる作品を募り之を展覧して相互の参考奨励に資し併せて情操教育の一端に裨益せんとするにありて写生記憶考案想像の種類を論ぜず全く粉本臨画の範圍を脱したる児童の直接表現は如何に幼き頭で描く想像が大人の思考の及ばざる広き自然に活躍せるかを示し以て軌道教育上の改善に資せんことを期し大日本児童自由画協会の後援によりて開催せんとす驚くは此趣旨を賛し左記要項によりて多数の出品せられんことを

大正九年三月八日

京都府教育会中郡部会

開会及出品要項

- 一 出品期限 本年二月末日
- 一 出品者は小学児童は固より幼稚園児及未就学児童にてもよろしい
- 一 出品は全く児童の自由発表になれるものに限る
- 一 用紙の種類大小用具には何等制限なく全く児童の自由とす而して一切装具を施すに及ばず
- 一 出品の一端に学年氏名年齢を明記し毎葉敵宣の場所に校印を押捺せられたし
- 一 出品御送付先 京都府中郡峰山小学校内京都教育会中郡部会宛
- 一 出品は凡て審査員にて審査をなし児童の自由発表と認め難きものは陳列を見合せ又優等の作品に対しては賞状を贈呈す
- 一 審査員 日本美術院審査員 山本鼎画伯 外数名
- 一 開会の時期 本年四月二十日ヨリ三日間
- 一 会場 京都府中郡峰山町小学校
- 一 参考品陳列 諸外国児童自由画作品及其他
- 一 出品は御請求あるもの限り弊会后に於いて返戻す
- 一 自由画に関する講演会 四月二十二日 会場にて

講師 早稲田大学教授 片山 伸氏

東洋家政学校長 岸辺福雄氏

読売新聞記者 谷 好夫氏

山本鼎が『自由画教育』大正十年十二月六日発行アルス刊迄での資料を掲載した。

『美術家の欠伸』大正十年二月十五日発行アルス刊、『芸術自由教育』大正九年十二月二十日印刷、から大正十年十月二七日印刷十号まで。
「消し難き火」(芸術自由教育第七号)に記述している。

山本鼎が簡単にした理論の形式である。

